Bulletin of Aichi Univ. of Education, 65（Humanities and Social Sciences）, pp. 131 − 144, March, 2016

外国語活動で養成された「聞くこと」「読むこと」の能力について
―グローバル化に対応した英語能力の測定―

高橋 美由紀* 大野 直子** 柳 善和***

*外国語教育講座
**グローバル・コミュニケーション＆テスティング
***名古屋学院大学

On the Proficiency of Listening and Reading in English Teaching in Elementary Schools
—Assessment of English Proficiency in the Globalization Era—

Miyuki TAKAHASHI*, Naoko OHNO** and Yoshikazu YANAGI***

*Department of Foreign Languages (English Education), Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan
**Global Communication & Testing
***Nagoya Gakuin University

1. はじめに

文部科学省は、「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」において、以下のことを提示した（文部科学省 2014）。

改革1. 国が示す教育目標・内容の改善として、
1. 小・中・高等学校の学びを円滑に接続させる、
2. 「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標（4技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む）を示す。

改革2. 学校における指導・評価として、英語を使って何ができるようになるかという観点からCAN-DO形式の学習到達目標に基づく指導と学習評価

ここで言われている「評価」について、この評価において、文部科学省は、CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）を導入し、小学校から高等学校の各段階を、Pre-A1からB2までのレベル分けをして示している。また、小学校中学年から外国語活動を導入し、小学校高学年では、教科として週70時間実施し、「聞く」「話す」に加え「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことを目標とすることが提案されている（文部科学省 2015）。

本論文では、「グローバル化に対応した英語教育」の提言の趣旨を活かし、そこで言及されている教科化を踏まえて、4技能の基礎を育成する小学校高学年の英語教育のあり方について中学校英語教育との接続について考察する。

具体的には次の3点を想定している。

(1) CEFR（ヨーロッパ共通参照枠）を基にした評価基準によって作成されたテストにより、中学入学時の生徒の「聞くこと」「読むこと」に関する英語能力を測定し、その能力の特徴を把握する。ここではテストとしてTOEFL Primaryを使用する。
(2) 生徒の英語学習に対する関心・意欲についてアンケート調査を実施し、英語学習と学習者の意欲・関心等の特徴を把握する。
(3) これらのテストと調査をもとにして、小学校高学年の「聞くこと」「読むこと」についての指導のありかたを論ずる。

2. TOEFL Primary®について

TOEFL Primaryは、米国の世界最大のテスト開発機構ETS（Educational Testing Service）が長年にわたって培ってきたTOEFL等のテスト開発に基づき、2014年に開発した、世界の主に小・中学生を対象とした「英語運用能力」を測るテストである。TOEFL Primaryテストの測定範囲は、CEFRでA1～B1までとされている。その上のレベルとしてTOEFL Junior がすでに実用化されており、このテストはCEFRでA2～B2までが測定可能であり、さらにこの上の段階としてTOEFL iBTへとつながるテスト設計となっている。

テスト構成は、印刷媒体で行うリスニング・リーディングテスト（各30分）と、コンピュータで行うスピーキングテスト（20分、ただしオプション）の3技能である。

リスニング・リーディングテストは、英語初級学習者向けのTOEFL Primary Step 1と、英語で何らかのコミュニケーションを取れる学習者向けのTOEFL Primary Step 2の2つのレベルが設けられている。

結果はTOEFL Primaryスコア（Step 1はリスニング・リーディングそれぞれ100-109点、Step 2はリスニング・リーディングそれぞれ100-115点）およびCEFRのグレード、読書能力を表すLexile指数で評価される（Lexile指数については後述する）。

3. 研究協力者及び研究方法

3.1. 調査実施内容

以下は、調査の実施時期とその内容である。

実施時期：2015年4月中旬（入学直後で中学校の英語授業の開始直前）。
実施協力者：東京都内の私立中学校（国際的な活動に力を入れている学級）1年生16名

実施内容：(1) TOEFL Primary Step 1（リスニング・リーディングテスト）を実施
(2) 筆者らが作成した、「小学校で取り組んできたこと」、「英語を使って、できることなどについて」英語学習に対する関心・意欲についてのアンケートを実施（Appendix 1参照）。

図1は、TOEFL Primaryのリスニングテストの例である（サンプル問題）（注1）。以下のような「絵」を見て解答する問題の他に、文字や数字を読んで回答する問題、音声だけが流れてその内容について答える問題等がある。リーディングテストについても、視覚情報を手掛かりとして解答できる問題から、徐々に内容が高度になり、文章を読んで内容を正確に理解していないと解答できない問題まである。いずれの場合も解答は3つの選択肢から選択するものであり、記述式の問題はない。

3.2. 研究協力者

研究協力者は前述のように、東京都内の私立中学校で国際的な活動に力を入れているクラスの1年生16名である。彼らの出身小学校は「公立小学校」12名（75%）、「私立小学校」3名（19%）、「公立＋海外小学校」が1名（6%）であった。また、これまでの英語学習経験は「あり」が62%、「なし」が38%であった。

彼らが学んでいるコースでは、英語母語話者の教師と日本人教師がペアで学級担任をしており、授業以外の日常生活場面でも、ティーム･ティーチング形式がみられる。例えば、英語母語話者教師が英語で時間割を伝えるなど、生徒が「日常的に英語に親しむ」活動も行っている。

このコースでは、英語の授業は週7時間あり、そのうち英語母語話者教師が指導にあたる時間は週4時間である。日本人教師と英語母語話者教師のコミュニケーションもしっかり図られている。例えば、日本人教師が授業内容を英語母語話者教師に伝え、彼らがそれを補完した授業を行うなどの連携を図っている。

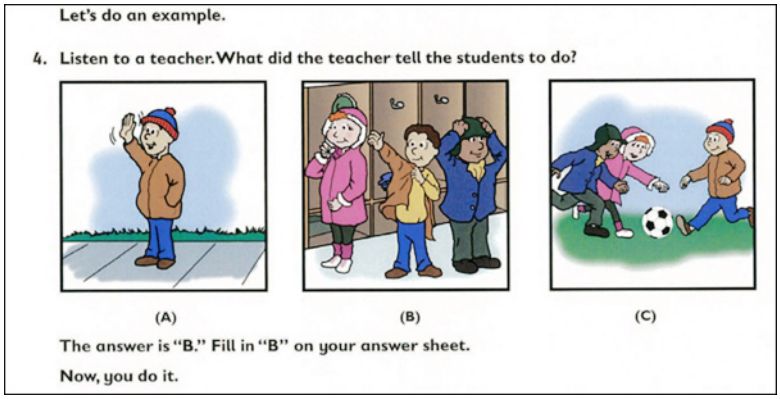

図1：リスニングテストの内容

4. 結果と考察

4.1. TOEFL Primary

表1は16名の生徒のリーディングスコア、CEFRでのレベル、Lexile指数、リスニングスコア、及びリスニングのCEFRでのレベルを示したものである。リスニングのスコアはA2レベルが5名、A1レベルが10名、それ以下のレベルが1名であった。また、リーディングのスコアはCEFRのA1レベルが11名、それ以下のレベルが5名であった。また、Lexile指数においては、125Lが5名、BR125Lが11名であった。

Lexile指数とは、アメリカのMetaMetrics社が開発した英語の読解能力向上を目的にした指数であり、「読書能力」と、本の難易度を表し、読書レベルに合った本を見つけるのを容易にしている。なお、「BR」というレクサイルコードは「Beginning Reading」の略である。このレベルは、自力で本を読むレベルに達しておらず、周りの人に本を読んでもらう必要があることを示す。

リーディングとリスニングのスコアについて、リーディングは平均102.7、標準偏差は2.10、一方、リスニングは平均104.0、標準偏差1.74であった。t検定の結果はt（15）＝−2.952188、p=.009、r=.61（効果量大）で有意な差が生じている。図2はリーディングスコアとリスニングスコアを箱ひげ図で表している。

表1：TOEFL Primaryの結果

Student Name	Reading	Reading CEFR	Lexile	Listening	Listening CEFR
Student 1	106	A1	125L	108	A2
Student 2	105	A1	125L	102	A1
Student 3	105	A1	125L	108	A2
Student 4	104	A1	125L	105	A2
Student 5	104	A1	125L	104	A1
Student 6	103	A1	BR125L	103	A1
Student 7	103	A1	BR125L	105	A2
Student 8	103	A1	BR125L	106	A2
Student 9	102	A1	BR125L	100	*
Student 10	102	A1	BR125L	104	A1
Student 11	102	A1	BR125L	104	A1
Student 12	101	*	BR125L	103	A1
Student 13	101	*	BR125L	103	A1
Student 14	101	*	BR125L	102	A1
Student 15	101	*	BR125L	104	A1
Student 16	100	*	BR250L	103	A1

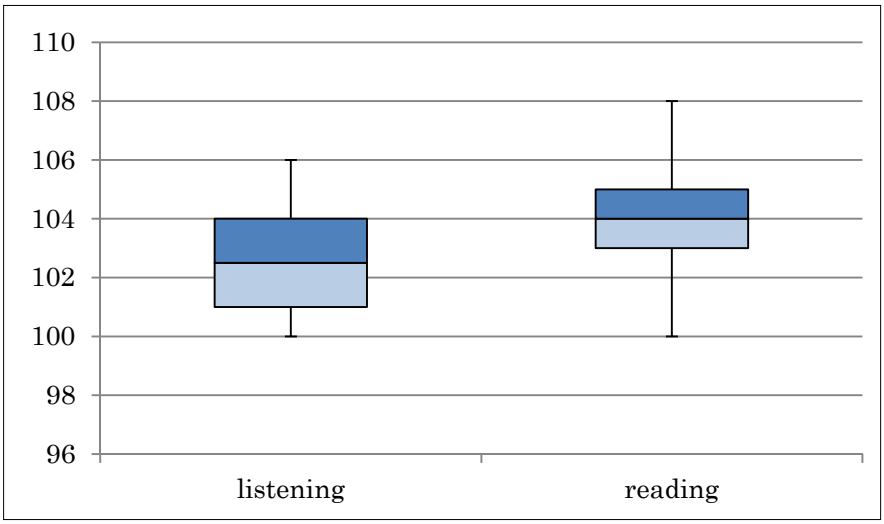

図2：リーディングとリスニングのスコアの比較

4.2.　英語学習に対する関心・意欲の調査

小学校外国語活動についての意識調査として、「外国語活動の楽しさ」を尋ねた。その結果は、4（＝とても楽しかった）6名、3（＝楽しかった）7名、2（＝つまらなかった）1名、1（＝全くつまらなかった）2名であった。また、「どんな活動が楽しかったか」といった問いに対しては、以下に示す12の項目及び「その他」の合計13項目について複数回答可として選択させた。以下の回答が得られた（複数回答可）。図3はそのグラフである。

(1) 歌やチャンツ（6名）
(2) ALTの先生の話を聞く（7名）
(3-1)『Hi, friends!』のテキストで、「聞いて線で結ぶ」「聞いて数字を書く」などの活動（5名）
(3-2) カード（カルタ）取りゲームやおはじきゲーム（7名）

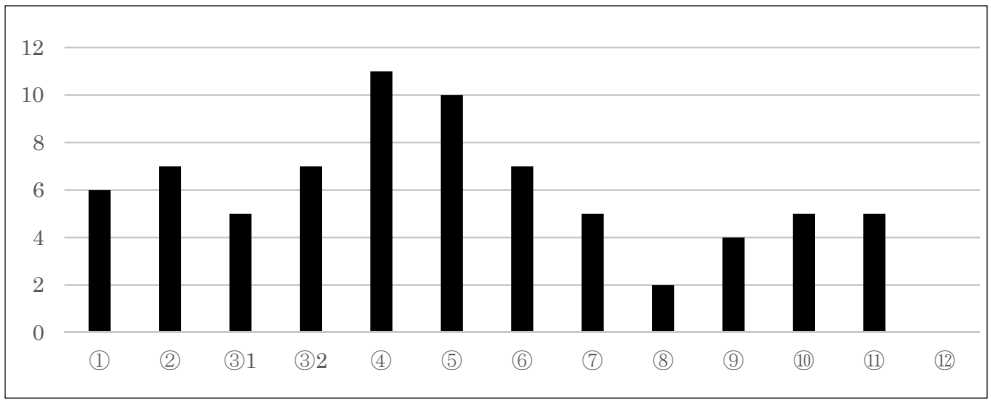

図3：楽しかったと回答した活動と人数（n=16）

(4) インタビュー･ゲーム（好きなもの、誕生日、できること、行きたい国などについて）（11名）
(5) 自己紹介や自分の一日を紹介する（10名）
(6) アルファベットの文字を読む活動（7名）
(7) 英語の単語を読む活動（例　apple, dog, Englishなど）（5名）
(8)「This is ME!」や「桃太郎」などの絵を手がかりにして文を読む活動（2名）
(9) アルファベットを書く活動（4名）
(10) バースディ・カードなど、英語の文字を書く活動（5名）
(11) 英語劇（5名）
(12) その他（0名）

具体的な活動内容で、興味関心が高かったのは、スピーキング活動（Spoken Production及びSpoken Interaction）である、「(4) インタビュー・ゲーム（好きなもの、誕生日、できること、行きたい国などについて)」や、「(5) 自己紹介や自分の一日を紹介する」であった。また、一般的に外国語活動で行われている「(1) 歌やチャンツ」、さらに聞く活動から聞いて認識する活動である「(2) ALTの先生の話を聞く」「(3-2) カード（カルタ）取りゲームやおはじきゲーム」等も楽しかったと回答している生徒が半数近くいた。

文字については、文字を読む活動では、「(6) アルファベットの文字を読む活動」が楽しいと思った生徒は多かった。また、「(7) 英語の単語を読む活動」の方が、「(8)「This is ME!」や「桃太郎」などの絵を手がかりにして文を読む活動」より多かった。一方、書く活動では、「(9) アルファベットを書く活動」より、「バースディ・カードなど、英語の文字を書く活動」の方が1名多かった。

4.3. CAN-DOリストによる学習者の意識

学習者の意識調査として、図4のCAN-DOリストを用いて、「英語の4技能の能力」について調査を行った。これは、CEFR-JのPre-A1に示されている【聞くこと】「ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞き取ることができる」「英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる」【読むこと】「口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる」「ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる」（投野編著2013：294）を参考にして作成した。なお、回答は4件法で（1＝全くわからない・全くできない、2＝あまりわからない・できない、3＝わかった・できた、4＝よくわかった、よくできた）とした。なお、ここでは紙面の関係上、リスニングとリーディングの内容のみ扱う。以下はそれぞれをグラフ化したものである。

リスニングについては、教師がteachers talkで話せば、3名の生徒以外は理解している。また、「聞いて文字がわかる活動」についてもこの3名以外は理解している。一方、リーディングでは、小学校で学習した内容や日常生活で慣れ親しんでいる英語については読むことができると回答した生徒が11名いた。リスニングとリーディングでは、リーディングができないと回答した生徒が多かった（図4）。

アルファベットについては、大文字では、「認識すること」「読むこと」が「できる」と回答した生徒が13名であった。また、小文字では、「認識すること」が「できる」と答え

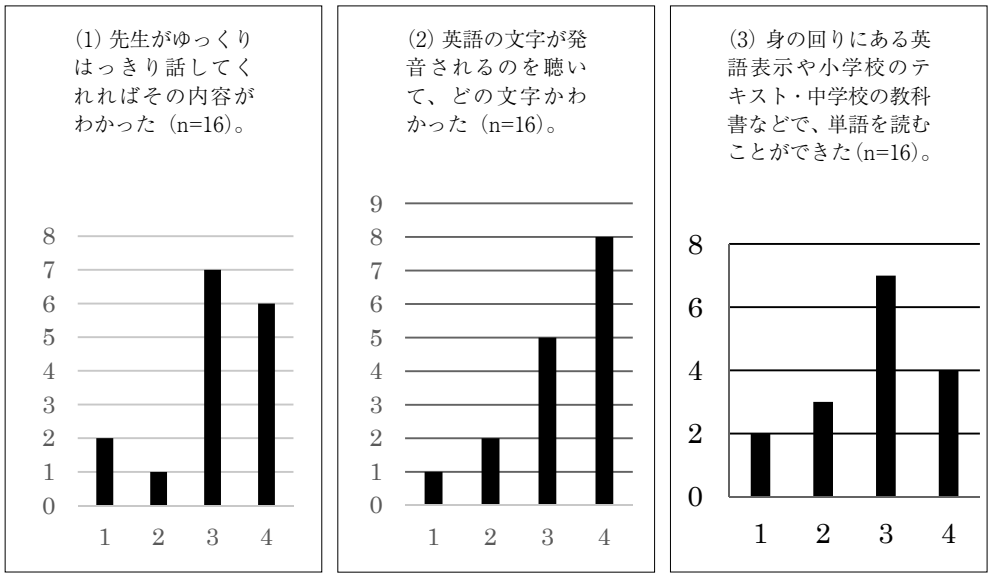

図4：Can-Doによる学習者の自己評価（1）ーリスニング・リーディング

た生徒が12名、「読むこと」が「できる」と回答した生徒が11名いた。

また、「アルファベットの文字を聞いて書く」調査については、大文字については、ローマ字にはない文字を選んで出題した。大文字については「V」以外は正答率が高かった。小文字についての正答率は平均解答者数13.4名であり、大文字の平均解答者数14.4名より、やや低かった。しかし、全体では、3分の2以上の生徒が小文字を正しく書くことができた（図5）。

図6は、それぞれの英語の語彙の理解について調査した。掲出する語彙は、『Hi,friends! 1』では、「Lesson 1 Hello！」「Lesson 2 I'm happy.」「Lesson 3 How many balls?」等で音声の補助として用いられたと思われる文字を、『Hi, friends! 2』では、「Lesson 1 Do you have "a"」の活動において、「見たことがあるアルファベットの表示を書き写そう」「見つけたアルファベットをクイズ形式で紹介しよう」で、文字指導を意識した活動（文部科学省2014）、及び、日常生活で生徒が目にしているものを選んだ。

調査では、これらの語彙を表す日本語の意味、例えば、「TV＝テレビ」、「Hello＝こんにちは」を正解とした。なお、「Hello」については「ハロー」という解答も多かったが、『Hi,friends! 1』の中の「世界のあいさつ」のレッスンで、日本人のさくらと光が、「こんにちは」と発話する場面があるため、「こんにちは」のみを正解とした。語彙については、アルファベットの文字に比較して理解できていない生徒が多かった。とりわけ、「ball」を「バル」、「Game」を「グミ」とローマ字のような読みをしたり、それらの語彙が何であるのかを全く理解できない生徒もいた。

4.4. まとめと考察

TOEFL Primaryの結果から、中学入学時の生徒の「聞く」「読む」に関する英語能力の測定、能力の特徴については、以下の2点が考察できる。

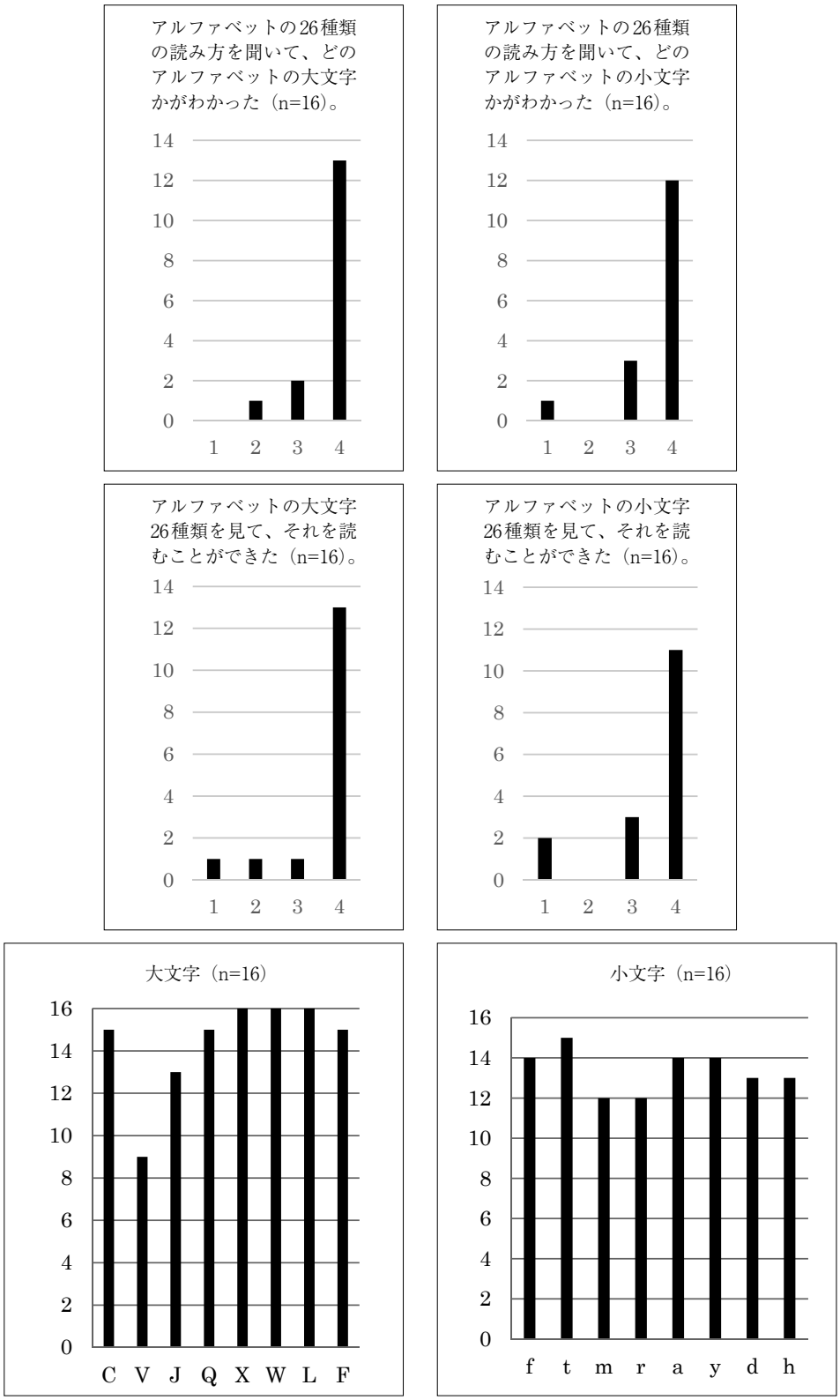

図5：Can-Doによる学習者の自己評価（2）ーアルファベット

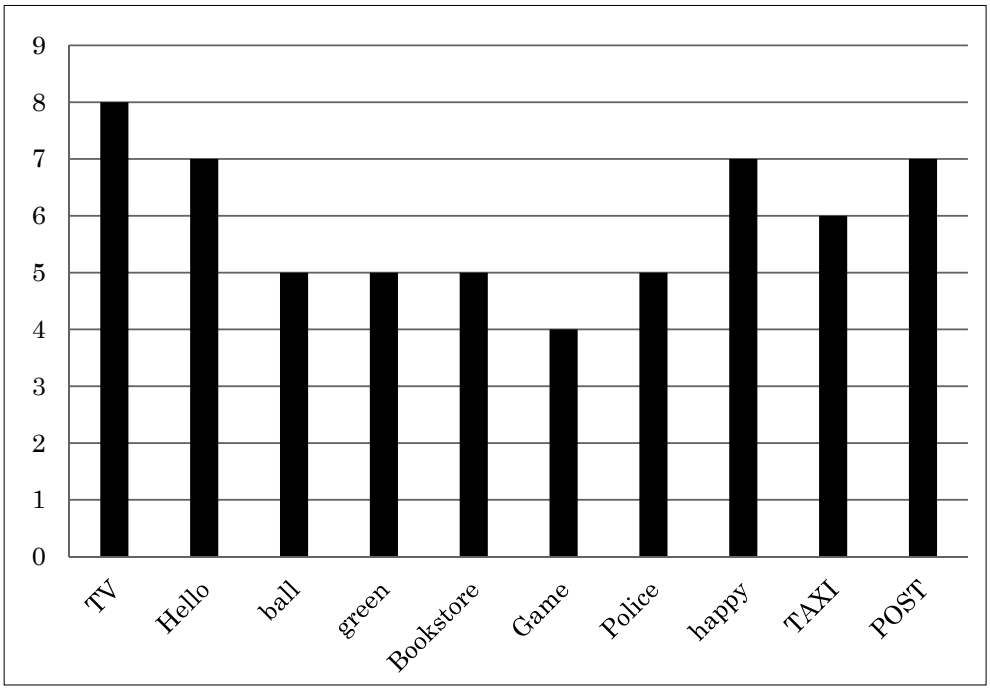

図6：単語の意味を読んで理解する（n=16）

① リスニングとリーディングの得点を比較すると、リスニングの得点が有意に高かった。これは小学校の外国語活動で「音声中心」の学習を生徒らが体験してきたことが影響していると考えられる。一方、リスニングとリーディングを比較すると、リーディングの方が標準偏差が大きく出ている。これはリーディングについては生徒間で能力差が大きいことを示している。また、リスニングについては小学校外国語活動で一定のレベルの授業が行われているが、リーディングについてはこれまであまり行われてこなかったために、興味関心の多寡、及び、学校以外での学習等、個人差が広がっているものと考えられる。

② Lexile レベルでBRの付いたレクサイル指数が16人中11名が表出された。これは、学習者がまだ一人で英語の書籍を読める力はないことを示している。つまり、教師や保護者等による「読み聞かせ」などによって生徒の「読む力」を育成していく必要がある段階であることを示している。

③ 今回の調査では、協力者たちの英語能力が様々であることがわかった。今後はこの結果を協力者ひとりずつ分析する必要があると考えられる。特に、本文中でも説明したように、協力者の中学校では、英語教育に関して日本人と英語母語話者の教師が協働で学級担任を務めるなど特徴のある教育を行っており、この教育の成果が今後どのように現れるかも追跡する必要があるだろう。

また、英語学習に対する関心･意欲の調査については、全般的に英語学習に対する関心･意欲は高かった。小学校で効果的な外国語活動が実践されていたことが考えられるとともに、私立中学校の「国際的な活動に力を入れているクラス」に志願して入学している生徒

たちであることも考慮する必要がある。

具体的な活動内容においては、コミュニケーション活動である「(4) インタビュー・ゲーム」などが楽しかったという結果が得られた。一方「文字を読むこと、書くことの活動」においては、これまで小学校外国語活動で「補助的に用いる」(文科省　2008:19) とされていたので、文字指導の内容が「アルファベットの文字」を読むことにとどまり、文字を「読むこと」や、読み取った文字を「理解すること」にまで進んでいないと推察できる。一方、「書く活動」においては「(10) バースディ・カードなど、英語の文字を書く活動」等、興味関心の高い活動から文字を導入した指導がなされた場合には、楽しかったと回答していることがわかる。

しかしながら、CAN-DOリストによる学習者の意識において、生徒たちが「(3) 身の回りにある英語表示や小学校のテキスト・中学校の教科書などで、単語を読むことができた」に「できた」「よくできた」と回答している生徒が11名（全体の69％）いることからもわかるように、生徒たちが小学校時代に文字に興味関心が高かったことと、学校以外で文字を学習していた可能性が高いことがわかった。

アルファベットの理解については、大文字、小文字ともに小学校段階でアルファベットを学習して、生徒たち自身も自信を持っていることがうかがえる。また、「アルファベットの文字を聞いて書く」調査についても、大文字では「V」以外は正答率が高かった。「V」については英語母語話者教師の発話を聞いて回答したため、外国語活動の時に聞いた文字とは異なった音声に聞こえ、正解の文字を書くことができなかったようであった。

小文字についても「m」「r」の音声は英語母語話者教師の発音で聞き取りが難しかったようであった。しかし、全体では、3分の2以上の生徒が小文字を正しく書くことができた。アンケート結果は、生徒の自己評価ではあったが、CAN-DOリストにおける彼らの評価が正しかったことを裏付けている。これらを踏まえると、中学校英語教育と小学校外国語活動の円滑な接続がなされていれば、中学校入学時にアルファベットの文字指導の時間は必要がないと思われる。

また、語彙の理解についてのアンケート項目は、全般的に興味関心が高かったことからさらに語彙を認識することを多くすれば効果的であると考えられる。

グローバル化に対応した英語教育において、小学校高学年では「聞く」「話す」に加え「読む」「書く」も含めたコミュニケーション能力の基礎を育成することが求められている。TOEFL Primaryの結果でリスニングがリーディングよりも高かったことから、リスニング活動を通してリーディング活動を促進させる活動が求められる。また、スコアのLexile指数でBR（Beginning Reading）のレベルが多く表出したことからもわかるように、教師による絵本の読み聞かせなどの活動が、生徒の英語力の伸長に効果的であることが考えられる。

5. 課題

今回の協力者は私立中学校「国際的な活動に力を入れているクラス」に志願して入学している生徒たちであり、英語学習にはもともと積極的な生徒であった。また、協力者の英

語能力、学習意欲等の個別の属性が異なるため、今後は個別の学習者を視野に入れた事例研究の手法を導入することが考えられる。さらに、一般的な公立中学校のデータと比較するためにも、CEFR等の国際的な評価基準に則った評価方法の導入が求められる（TOEFL Primary等）。その上で教科化が想定されている小学校高学年の英語教育について国際的な評価基準に則った指導法がどうあるべきなのかという検討を進め、指導法についても検討したい。

注

1：TOEFL Primaryは実際の問題は公表していないので、ここではサンプル問題を使用して問題の内容を紹介している。

参考文献

文部科学省（2008）『小学校学修指導要領解説外国語活動編』東京：東洋館出版社.

文部科学省（2014）「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf
（2015年9月10日検索）

文部科学省（2014）『Hi, friends! 1』『Hi, friends! 2』東京：東京書籍.

文部科学省（2015）「英語教育の在り方に関する有識者会議（第9回）配付資料」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/shiryo/1352268.htm
（2015年9月10日検索）

投野由紀夫編著（2013）『CAN-DOリスト作成・活用　英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』東京：大修館書店.

謝辞

データの収集にご協力いただきました私立I学園の生徒の皆さん及び先生方に感謝申し上げます。

なお、本稿は第15回小学校英語教育学会（JES）広島大会（2015年7月）にて発表した内容に加筆修正をしたものである。

また、本稿は「小・中学校を通した英語教育における流暢性に関わる言語能力育成シラバス開発」H25～H29年度科学研究費助成金基盤研究（C）課題番号25370659、及び「「読むこと」「書くこと」を統合的に指導する小学校英語教育のプログラム開発」H26～H28年度科学研究費助成金基盤研究（C）課題番号26370725の成果発表の一部である。

Appendix 1　生徒に使用したアンケート及び英語問題

皆さんへ

これは、テストではありません。皆さんが小学校でどのような外国語活動をしてきたのかを知るための調査です。

1年（　　）組（　　）番　　氏名（　　）

出身小学校（　　）男 ・ 女

次の質問に該当する方に〇をつけて下さい。

1. 学校以外で英語を習っていましたか？　はい（　　）年間・　いいえ

   習っていた人は具体的に書いて下さい。

   （　　）

2. 小学校で外国語活動は楽しかったですか？

   4. とても楽しかった　3. 楽しかった　2. つまらなかった　1. 全くつまらなかった

3. （この部分の（1）～（16）につけられていた選択肢は紙面の関係で省略してある。なお、選択肢は四択で4から1になるに従って、「できる」から「できない」の段階に作成してある。

(1) 先生や友達が、ゆっくりはっきりと英語を話してくれれば、その内容がわかった。
(2) 小学校のテキストや中学校の教科書などで、自分の知っている英語の単語があった。
(3) 身の回りにある英語表示や小学校のテキスト・中学校の教科書などで、単語を読むことができた。
(4) アルファベットの大文字26種類を見て、それを読むことができた。
(5) アルファベットの小文字26種類を見て、それを読むことができた。
(6) アルファベットの26種類の読み方を聞いてどのアルファベットの大文字かがわかった。
(7) アルファベットの26種類の読み方を聞いてどのアルファベットの小文字かがわかった。
(8)「インタビュー･ゲーム」などでは、先生や友達に英語で自分の気持ちを伝えることができた。
(9)「インタビュー・ゲーム」などでは、友達とやり取りが英語できた。
(10) 授業の始まりや終わりの「あいさつ」が英語でできた。
(11) 自己紹介（名前、年齢など）を英語ですることができた。
(12) 自分の好きなものや趣味、持ち物について、皆の前で英語で話すことができた。
(13) アルファベットの大文字26種類を正しく書くことができた。
(14) アルファベットの小文字26種類を正しく書くことができた。
(15) 先生の言う「英語の単語のそれぞれのアルファベット文字、（例えば、C（シー）・A（エー）・T（ティ））など」を聞いて、その通り書くことができた。

(16) 身の回りにある英語表示や小学校のテキスト･中学校の教科書などを見て、正しく書き写すことができた。

4. 小学校で外国語活動で楽しかった活動を5つに「○」をつけてください。

(1) 歌やチャンツ
(2) ALTの先生の話を聞く
(3)-1 『Hi, friends!』のテキストで、「聞いて線で結ぶ」「聞いて数字を書く」などの活動
(3)-2 カード（カルタ）取りゲームやおはじきゲーム
(4) インタビュー･ゲーム（好きなもの、誕生日、できること、行きたい国などについて）
(5) 自己紹介や自分の一日を紹介する
(6) アルファベットの文字を読む活動
(7) 英語の単語を読む活動（例　apple, dog, Englishなど）
(8)「This is ME!」や「桃太郎」などの絵を手がかりにして文を読む活動
(9) アルファベットを書く活動
(10) バースディ・カードなど、英語の文字を書く活動
(11) 英語劇
(12) その他 （具体的に）

5. 先生の話す英語を聞いて自分のことを答えよう（英語でなくてもカタカナでもいいです）

①（教師の音声）Hello. How are you?
②（教師の音声）When is your birthday?
③（教師の音声）How many pencils do you have ?
④（教師の音声）Do you like apples ?
⑤（教師の音声）What color do you like?
⑥（教師の音声と『Hi, friends! 1』のp. 41「banana」「orange」「peach」「lemon」「melon」等の絵カードを見せて）What do you want?
⑦（教師の音声とリコーダーの一部を見せて）What'is this?
⑧（教師の音声と時間割（＊別に示すか、各学級の時間割をもらう）を見せて）
What do you study on Tuesday?
⑨（教師の音声とランチメニューの絵を見せて）What would you like ?
⑩（教師の音声）Do you have notebooks ?
⑪（教師の音声）Can you swim?
⑫（教師の音声と鳥、ペンギン、魚の絵）I can fly but I can't swim. Who am I?
⑬（教師の音声と『Hi, friends! 2』のpp. 18-19の国旗の絵）Where do you want to go?
⑭（教師の音声）What time do you get up?
⑮（教師の音声）What do you want to be?

6. 先生の英語を聞いて、アルファベットの大文字を書いてみましょう。

① C ② V ③ J ④ Q ⑤ X ⑥ W ⑦ L ⑧ F

7. 先生の英語を聞いて、アルファベットの小文字を書いてみましょう。

① f ② t ③ m ④ r ⑤ a ⑥ y ⑦ d ⑧ h

8. この単語はなんでしょうか？

①TV（　　）②Hello（　　）③ball（　　）
④green（　　）⑤Bookstore（　　）⑥Game（　　）
⑦Police（　　）⑧happy（　　）
⑨TAXI（　　）⑩POST（　　）

9. 先生が言った文を選びましょう。『Hi, friends! 2』p. 13 pp. 26–36 を生徒に見せる。

①（教師の音声）I can help my friends.
②（教師の音声）We are good friends.
③（教師の音声）Here you are. Thank you.
④（教師の音声）We are strong and brave.
⑤（教師の音声）We are happy.
⑥（教師の音声）I can save the Earth.

（2015年9月24日受理）